

CAGLIERO 11

N.136 - 2020年4月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



友人の皆さん、

皆さん一人おひとりに主のご復活のお祝いを申し上げます!

宣教顧問としてこの最初の数行を書きながら、12世紀の神学者、ソールズベリーのヨハネの言葉を思い起こさずにはいられません:「私たちはまるで、巨人の肩の上の小人のようである。巨人たちよりも遠くを……見ることができるように。しかしそれは、私たちの目の鋭さや身体的な強さのためではなく、私たちがより高い位置に座っているから、巨人たちが大きいので、高く上げられているからである。」

したがって、深い感謝と共に、私はこの部門の先輩方、特にこの6年間(2014 - 2020) 奉仕された、ギジェルモ・バサニェス神父様を思い起こします。また2009年から2014年にかけて宣教顧問を務めたヴァツラフ・クレメンテ神父様にも感謝します。神父様は11年前、直観を得て、宣教活性化のための簡単でありながら効果的は手段として、このカリエロ11を始めまし

た。宣教部門のチームの皆さんにも感謝します。私は自分にゆだねられた務め、「宣教の精神と活動を会の中で促進する」(会憲第138条) ことにおいて助けていただくため、皆さんの有能さ、献身、協力を信頼します。

ほかのところすでに申し上げたように、私は宣教顧問に選ばれるとは思っていませんでした。実際、何かが起こりそうだと気づきはじめて、言葉ではっきり表明し、この任命を避けようと思いました。その理由の一つは、私たちの準管区が切実に人材を必要としているからです。しかし、実に、「聖霊は、望むままに、望むときに、望む場所で働かれます。……分かっていることは、自分をささげるように求められていることだけ」(福音の喜び279)と、謙虚に認めなければなりません。

この文を書いている間にも、かつて見たことのないような性質の疫病の蔓延を私たちは経験しています。この人類の悲劇は、聖霊が私たちに語られることを、勇気をもって思い巡らし、識別するようという招きです。

今度の6か年の頂点を飾るのは、むろん、サレジオの宣教派遣150周年です(1875 - 2025)。私の願いは、私たち一人ひとりが勇気をもって、心を開くことです。聖霊が、望むままに、望むときに、望む場所で私たちの心の中に働いてくださるために; 私たちが勇気をもって、温順な心で、安全地帯を出て聖霊が遣わすところへ、献身する心をもって出かけていくことです。

Alfred Maravija 宣教顧問 アルフレド・マラヴィジャ神父

アルフレド・マラヴィジャ神父 インタビュー

アルフレド・マラヴィジャ神父は今回、チームの一員としてではなく、顧問として、サレジオ会宣教部門に戻ってきました。フィリピン出身、長年にわたる宣教の第一線で経験を持ち、最近まで活力に満ちた準管区の長上であったマラヴィジャ神父は、新たな役職について思うことを、このインタビューで語ってくれます。



今、どのように感じていますか? 最高評議会の新しい宣教顧問に選ばれ、どう感じているかと人に聞かれます。選ばれないよう一生懸命努力した、と答えています。宣教部門での奉仕の後、パプアニューギニア・ソロモン諸島準管区に帰れると思っていました。実際、最高評議員の選挙に向けての識別のプロセスで、何か起こりそうだと気づき始めたとき、EAO委員会で、宣教顧問として候補に上げられることを、言葉に表明して断りました。さまざまな理由の一つは、私たちの準管区が切実に人材を必要としているからです。

福者フィリッポ・リナルディ・パプアニューギニア・ソロモン諸島準管区はどのような状況ですか? 私たちは新しい管区のために、土台、構造、システムを本当に据え始めたばかりなのです。残念ながら、ほかの4つの地域も私を候補に指名しました。そのため最初の投票で、222の投票総数のうち178票を獲得しました。この選出によって、私たちの準管区のための計画やビジョンは、世界のこの一角で生涯をささげる宣教師でいたいという私の願いと共に、一瞬のうちに地平線のかなたに消えてしまいました。私は聖霊を信じ、聖霊は曲がりくねった不確かな未来をまっすぐにしてくださるでしょう! 今のところ、この曲がりくねった線が最終的にどのようにまっすぐになるのか、私はまだ理解に苦しんでいます! ある実地課程生が書いてきた言葉は、ここ最近の私の気持ちを要約しています。「主がどうして神父様を私たちから取り上げるのか、理解できません!」



宣教顧問という新たな役目を、どのように見えていますか？ こんどの6か年(2020-2026)には、第一回サレジオ宣教派遣(1875年)の150周年記念があります。EAOの1,500名のサレジオ会員への私の願いは、望むままに、望むときに、望む場所で働かれる聖霊に、一人ひとりが心を開いてゆだねる勇気をもつことです。私たちがドン・ボスコの宣教精神に活かされ、安全地帯を出て前へと歩いていく勇気をもつために。この宣教精神のおかげで、ドン・ボスコのカリスマは今、EAOに深く根づいています。人材面で豊かであろうが、貧しかろうが、EAOのすべての管区が会の宣教活動に積極的に参加する時が来ています。逆説的に、宣教へのそのような惜しみない寛大さによってはじめて各管区は、それぞれの国の貧しく疎外された若者に仕えるために、生き生きと活力にあふれるのです。

「心から幸せですか」(Ma sa' lach' ool) ?

第 141回宣教派遣にあずかって以来、私は机の引き出しに宣教生活の簡単な計画を記した小さな紙片を入れています。記した項目の一つは：「ドン・ボスコの宣教師の心が、生活の磁石であるように。」誰でも宣教の召命を考えている人がいれば、私はこの助言の言葉を分かち合いたいと思います。私はグアテマラの先住民族マヤ・ケクチの人々の中で、25万人が400以上の村々に散らばって暮らす宣教地の小教区で、9年余り働いています。

手短かに言うと、私はケクチの人々と共に暮らす宣教生活で3つのことを学びました：見る、耳を傾ける、待つ、です。宣教師は、人々と共にいて生活を分かち合うため、客人としてやって来ます。アシジの聖フランシスコが言ったとされる美しい言葉があります：「いつ何時も、福音を宣べ伝えなさい、必要ならば、言葉を使つて。」ケクチはすばらしい人々ですが、残念ながら、その存在は世界にほとんど知られていません。ケクチの人々があいさつのときに使う表現で、宝石のような言葉があります。どこでも、出会うと、人々は互いに尋ね合います。「心の中で幸せですか」(Ma sa' lach' ool) ? 宣教師として何年か生きてきて、私はこの幸せが心を満たしているのを、そして宣教師であることが神からいただいたすばらしい贈りものであるのを感じています。

イタリア出身、グアテマラの宣教師 **ヴィットリオ・カスターニャ**



サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 **ピエルルイジ・カメローニ** 神父

尊者 **ドロテア・デ・チョピテア**(1816-1891)、妻であり、6人の子どもの母であった。ドロテアは列福調査の行われた最初のコオペラトリー会員。ドン・ボスコが「お母さん」と愛情をこめた呼び名で呼んだ、数少ない一人だった。そして真に、すべての人にとって母であった。必要とあればいつでも手を差し伸べる用意があった。ドロテアの寛大な貢献によって存在する、31を下回らない数の団体のリストがある。尊者のうちに最も輝いていた美德は、愛徳だった。「惜しみなく施す神の人」は、同時代のバルセロナのほかの誰よりも、徹底して全財産をささげた。ドロテアの価値の尺度では、貧しい人々への愛が一番に優先された。「私は貧しい人々のことを真っ先に思います。」

扶助者聖マリアにゆだねる祈り

キリスト者の扶けマリアよ

私たちの父ドン・ボスコが、コレラ蔓延のとき オラトリオの少年たちと共に行ったように

私たちもサレジオ家族として 新型コロナウイルスの蔓延に苦しむ世界にあって

子として、あなたの母の心に、私たちと世界をゆだねます

病気の人とその家族をなくさめてください

医師、医療にたずさわる人々を支えてください

社会のすべての人、行政を担う人々を助けてください

この疫病によって亡くなった一人ひとりをお迎えください

何よりも、私たち一人ひとりのうちに、共同体、家庭のうちに

あなたの子、死んで復活された御子イエスへの信仰を新たにしてください

あなたへのドン・ボスコの言葉を、自分たちの言葉としてあなたに申し上げます：

ああ、マリア、力あるおとめよ、教会の大いなる、見事な防壁

すばらしいキリスト者の扶け、戦いで布陣をしる軍のように力みなぎる方

あなただけが、信仰の真理の道から離れさせるこの世のあらゆる物事に打ち勝たれます

不安、闘い、苦難のなか 私たちを敵からお守りください、そして臨終のとき

私たちの靈魂を天にお迎えください

アーメン



サレジオ会の宣教の意向

